



カントウータ

Cantuta

No.16

平成 23 年 5 月 1 日発行
(社)日本ボリビア協

協会からのお知らせ

理事会の開催

平成 22 年 1 月 12 日に住友商事本社にて理事会が開催されました。審議事項についてお知らせいたします。

審議事項

1. 平成 22 年度上期収支報告と下期見込

1) 上期収支結果

収入(会費) ¥492,000
支出 ¥188,264
下期繰越金 ¥2,011,290

2) 下期収支見込

収入(会費) ¥508,000
支出 ¥550,000
次期繰越金 ¥1,969,290

10月末で会費は約90万円納入される見込みである。さらに会員の勧誘を行って増収をはかっていきたい。

2. 22年度活動重点項目の推進状況

1) 会報の発行

カントウータ15号を11月1日付で発行し、会員にはメールと郵送で送った。今後3~4ヶ月に1回発行したい。

2) ホームページのリニューアル

業者から見積りを取り発注した、完成見込みは12月の予定。協会メンバーで更新できるように改善する。

3) 在日ボリビア人及びボリビアの日系団体との交流

現在調査検討中

4) 財政基盤の強化

維持会員及び個人会員の勧誘を推進

3. その他

1) 公益法人の認可取得

現在の社団法人は平成25年11月までに認可を受けなければ継続はできない。事務局で調査をして今後の対応を理事会に諮問する。

2) 協会の収入増をはかるためチャリティー講演会及びコンサートを企画する。

3) ボリビアへの支援事業を企画する。

協会の活動報告

1. 第51回海外日系人大会

平成22年10月20日~22日に渡り、約30か国から500人近い日系人及び日本人関係者が集まり交流を深めた。初日は常陸宮殿下ご夫妻が臨席され歓迎交流会が行われた。翌日からは4分科会に分かれ1. 日本語教育と日本文化、2. 在日日系人、3. 日系ユース、4. 重国籍・在外選挙・年金で討議が行われた。ボリビアからの留学生3名も参加していた。当協会からは川川会長(主催者側:海外日系人協会専務理事)及び杉浦理事が参加した。

2. 在日ボリビア人交流会

平成22年12月19日横浜市鶴見で19名の参加(内訳ボリビア人4名・日系ボリビア人7名、日本人8名)して交流会を実施した。

ホームページをリニューアルしました

2月より本協会ホームページがリニューアルされました。今後は、随時更新していき、より充実した情報を発信していきたいと考えています。

駐日ボリビア大使にルイス正春比嘉トミタ氏が着任



今度、前任の安次額大使離任後2年ぶりに日系二世の比嘉ルイス大使が着任しました。大使は空軍のパイロット及び教官をさ

れており、2005年～2009年の間モラレス大統領専用機のパイロットを勤めておられました。家族は奥様との間に1男2女がいらっしゃいます。なお大使には挨拶文を寄稿していただきました。

駐日ボリビア多民族国大使 ルイス正春比嘉トミタ

日本ボリビア協会の皆様、会報カントウータに私の挨拶状を載せていただけることにお礼申し上げます。先ず初めに、ボリビア多民族国大統領エーボ・モラレス氏に謝意を表します。私に信頼を寄せて駐日大使という重要な役を任命して頂いたことに感謝いたします。私の仕事は

- ・日本国に対してボリビア多民族国の名を代表していること。
- ・在日ボリビア人を、国際法の範囲内で守ること。
- ・ボリビア国益のために多方面において日本国との仲介人になること。
- ・両国間の親睦を深め、経済面、文化面、科学技術面において日本とボリビアの良好な関係を発展させることです。日本ボリビア協会の会員の皆様に大使館職員一同と共にご挨拶申し上げます。

林屋相談役サラマンカ大学より名誉博士号を授与

平成22年10月25日林屋相談役がスペインのサラマンカ大学から日本人では初めて名誉博士号を授与されました。サラマンカ大学は世界で4番目に古く創立800年です。授与式は古式に則って執り行われました。授与式では同大学学長より「林屋氏は1941年～44年同大学の哲学・文学部でスペイン語を学ばれました。スペインを初め各国で大使を勤められるなど外交官として輝かしい業績を上げるとともに、教育、文学、翻訳においても卓越した仕事をされ、三つの大陸を結びつけるという偉大な貢献をなしておられます。コロンブスの書簡、航海誌とユカタン事物記の翻訳することにより、ヨーロッパ大陸と我が大学をアメリカとアジアに結び付けて下さいました」また同大学の日本文化センターの設立に寄与し、同大学の日本語及び日本文化の教育に積極的に協力していることが認められ名誉博士号を授与されました。

大貫副会長サン・マルコス大学より名誉博士号授与

平成22年9月15日ペルーの国立サン・マルコス大学より名誉博士号を授与さ

れました。本大学は1551年の創立で南北アメリカ最古の大学で19世紀から20世紀にかけて近代国家ペルーのあらゆる分野で指導的役割を果たす人材を輩出させてきました。大貫氏は50年に渡るアンデス考古学研究、クントウル・ワシ遺跡の発掘と博物館建設、後身の育成などに功績が評価されたことによります。また70余名という異例の多数の教授の推挙もありました。授与式には学長、学部長その他の教授陣、学生、考古学関係者、日賀田周一郎日本大使及び友人、知人などを迎えて行われました。

杉浦理事ボリビア訪問

平成23年2月11日～3月10日まで1か月間杉浦理事がボリビアのサンタクルス、コチャバンバ、ラパスの3都市を訪問し約150名の在留日本人・日系人・ボリビア人の皆様と親しく交流する機会を持ちました。サンタクルス市ではオキナワ移住地とサンファン移住地の日本人会や商工会、農業協同組合またコチャバンバでは日本人の経営している身体障害者の孤児院を訪問しました。またラパスではボリビアリチウム資源開発セミナーにオブザーバーとして参加できました。そして日本・ボリビア両国の政府、民間企業、大学、研究機関などの関係者ならびに日本人会、日本企業の現地法人の駐在員、在留日本人の方々多数にお会いできました。今回のボリビア訪問を通じて私が印象に残ったのは次の点です。

1. ボリビアの将来を支える基幹産業は実績のある鉱山冶金産業に加え農業畜産業、観光業の三本柱が有望であり、その潜在資源に大変恵まれている。
2. 上記の開発・発展を通じて雇用機会の増加・創出を図ることである。ボリビアで現在最も不足しているのは政官民各界の指導的なリーダー及び専門家・技術者・技能者である。これらの人々の育成が急がれる。
3. ボリビア人と日本人の性格は大人しく、控え目、内気で他人にやさしいという共通点があり、きわめて類似した国民性を持っている。今回ボリビア訪問時関係各位に大変お世話になり感謝しています。今後ボリビアのために協力していきたいと思っています。ありがとうございました。(なおボリビア訪問記は次回のカントウータ17号で発表させていただきます)

エケコ人形



駐日ボリビア多民族国大使館大使秘書
三浦 光

最近日本の巷ではエケコ人形が流行っているらしい。某テレビ局で、夢を叶えてくれるお人形として紹介されたようだ。確かにラパスの町は、1月24日正午エケコ人形が大活躍する。お昼12時にサウマールといわれるお払いの煙とアルコールで清め、その場で買った物を祝福してもらったら、ご利益も確かなものになるという。アラシッタといわれる露天ミニチュア市は現地語で「買う」ということだから、今年欲しいものを、アラシッタに行つてミニチュアを買うしかない。1月24日は、ラパスはサウマールの煙の町となり夢を買う日になる。本物と変わらないアメリカドル札やユーロ札まで買えるから楽しい。買ったお金をサウマールしてもらい、家族やお友達と交換すると本当にお金持ちになるとか。しかし厳密に言えば、買うという行為は、昔の物々交換の時代にはなかったわけで、ティワナク時代からのしきたりとは考えられないが。もともとエケコとは、小人という意味で、ヤティリといわれる呪術師のそれこそミニチュアであり、12月21日に太陽のお祭をしていたのだが、それを征服者のスペイン人は訳ありで日付をずらして1月にしたらしい。ある意味で力がありそうなところは分散させられるのだから。太陽が一番強いお昼12時というのはその名残りかもしれない。火曜日と金曜日にお祈りするとかいうのはエケコ本人は知ったことではないだろう。エケコが欲しいのは、コカの葉だ。それとアルコール飲料と煙草。今となつてはなんでも叶えてくれる神様になってしまったエケコもまんざらでもないと言っているかもしれない。昨今の世の中が暗いときに夢のある話がでてくるといってもエケコが私たちの願いをなんでも聞いてくれるということと同じぐらい不思議ではない。1年に1回、周りにいる家族やお友達ちとお互いの夢を話したり

する、欲しいものをミニチュアで買ったりする、それを交換したりする、それがエケコがもろ手を挙げて世界中に発信したがつていることなのではないだろうか。あんなに小さな小人さんなのにすごいパワーを秘めていて、現代のわれわれ日本人の心の中にもそっと忍び入り、同じモンゴロイドの血を分けたボリビア先住民の底力をそれとなく発揮しているのかも知れない。これもボリビアの大地の神‘パチャママ’のお導きだろうか

サッカー南米選手権でボリビアが優勝し…

日本ボリビア協会 理事 細野 豊
外務省の事務官A氏とやがてわが職場の同僚となるN君それに私の3人で、戦後に農業移住者として南米諸国へ渡つた日本人の暮しぶりを調査するために、私にとって初めての海外旅行をしたのは、1963年（昭和38年）の春であった。それは、約40日間に亘つてボリビア、パラグアイ、アルゼンチン及びブラジルの各地に散在する日本人移住地を巡る長旅で、新東京国際空港（成田空港）が開港する15年も前のことだったから、先ず羽田国際空港から路線開設間もないカナディアン・パシフィック航空のブエノスアイレス（アルゼンチン）行きジェット機に乗り、リマ（ペルー）まで飛んだ。そこからボリビア航空のプロペラ機に乗り換えてラパス（ボリビア）へ行き、そこに3日ほど滞在した。

この初めての南米旅行で、私は各国の都市や奥地に住む人々の生活ぶりを直に見て強烈な印象を受け、心の目が開かれる思いを味わうとともに、日本人移住者の方々の生活実態に接して、少なからぬ衝撃を受けた。このことについては、何らかの形で書かなければならないと自覚はしているものの、現実には接して、それを自分がいかに受け止めたかを適切に表現するのは容易なことではない。それで今回は、海拔3千数百メートルに位置するラパス市での楽しかった体験とラパスからボリビア第2の人口を有する亜熱帯の都市サンタクルスへ向かう途次に遭遇した思いがけない出来事について書くことをお許し願いたい。

初めてラパスにやってくる人は、殆ど例外なく高山病に罹り、少なくとも2、3日は頭が朦朧とした状態になる。私たちも例外ではなかったのだが、到着した翌日、街中がお祭り騒ぎで、昼間からビールやチチャ（玉蜀黍から作られる地酒）に酔いしれた群衆で溢れていた。私たちもこの熱気に

つられて元気になり、街へ繰り出したのだが、酒場の前を通りかかると、一緒に祝杯を挙げようと誰かに腕を掴まれ、店へ連れ込まれる始末であった。何のための祝杯かと尋ねると、ここ数日に亘ってラパス市や周辺の都市で行われたサッカーの南米選手権で、南米中の並いる強豪チームを次々に撃破してボリビアが優勝したので、大統領令が公布され、国中が3日間の休日となり、勝利の美酒に酔いしれているのだとのことであった。ラパスを始め、海拔3千メートル以上の都市で試合が行われたため、高地に慣れていない外国の選手たちは、息が上がってしまい、高地に生まれ育ち、薄い空気から充分に酸素を吸収出来るように肺が大きく発達しているボリビアの選手たちに太刀打ち出来なかったというのだ。

私たち3人には、更におまけがついた。翌日飛行機でサンタクルスへ向けて出発したのだが、経由地のコチャバンバで一旦降りて、待合室で待機している間に飛行機は私たちを置き去りにしたまま、行ってしまったのだ。「これはどういうことだ!」と、未だ使い慣れていないスペイン語を懸命に操って、空港の職員に抗議したが、埒が開かない。飛行機は、サンタクルス経由で帰国するブラジルのサッカー選手を優先的に乗せて、行ってしまったのだ。止むを得ず、この町で自転車店を営んでいた日系人を探し当て、事情を話して助力を求めたところ、夜中に発って翌朝サンタクルスに着くバスがあるとのこと、これに乗った。車窓から見えた丸い月と椰子の木立のシルエットがやけに美しかったことが記憶に残っている。

新会員の紹介

平成22年11月以降会員になられた方
平良親太郎ルシアノ

田中一雪
田中リネ

会員計報

長嶺 稔
平成22年11月5日死亡
享年80歳

ボリビアの近況

サンファン協会のABJ通信より抜粋

サンタクルス市450周年記念式典開催

サンタクルス市は現在人口150万人ともいわれ、ボリビア第2の人口を誇り、農牧

商工業共にボリビアのトップとなる生産がある大きな市に発展している。だが約5世紀前は、Nuflo de chaves が代表とするスペイン人征服者らによって1561年2月26日、チキートのスト(Suto)河岸にサンタクルス・デ・ラ・シエラと名乗る市街地を創設したのが、現在のサンタクルス市の始まりとされている。2月26日、ルベン・コスタス県知事をはじめモラレス大統領も出席して、サンホセ・デ・チキトス市で創立450周年記念式典が挙行された。

南米大陸横断道路10月完成予定

ブラジルのサントス港からボリビア国内を経由してイロ港、アリカ港、イキケ港に通じる、いわゆる「南アメリカ大陸横断道路」はボリビア国領土内のTintoとQuimome間の36Kmの舗装道路が完成すれば、大西洋と太平洋を結ぶ全線すべてが開通する状態となった。この区間はボリビアが建設することになっており、資金はUEの無償資金3,372万ドルで今年の10月に完工予定となっている。

平成22年度定期総会開催のお知らせ

下記日時で開催されますので出席お願いいたします。

1. 日時 平成23年5月26日(木)
PM4:00~5:00
2. 場所 サロンラテンアメリカ
ボリビア大使館が入居しているビル8階
*案内状は会員の皆様に郵送します。

編集後記

杉田房子
カントウータ16号号をお届けいたします。今号は金田事務局長がほとんど編集制作なされたもので、新メンバーが実力を発揮し力強いかがりです。本年度の総会が近く開催されますので会員・役員の方々との顔合わせが楽しみです。新しいお仲間もお力をつけて本協会の発展に実力を発揮なさるお姿はたのもしい限りです。自発的にボリビア視察をなさった会員の方のご報告をお聞きできる機会を楽しみにしております。会員の輪が広がりますよう、お仲間を当協会の会員になっていただけますようお願い申し上げます。

(編集委員)

杉田房子、細野豊、金田正敏、金木克公 細萱恵子